

荒川上流域のオオカミ信仰

秩父山地にはかつてオオカミが生息していました。そのため三峯神社などオオカミを祀っている神社が多数あり、現在でも信仰されています。



三峯神社拝殿



オオカミの像（三峯神社）



オオカミの像（寶登山神社）

荒川上流域のオオカミ信仰

日本国内では明治末期に絶滅したとされるオオカミですが、荒川上流に広がる秩父山地もまた、かつてオオカミの生息地でした。

秩父山地一帯には「お犬様」と称してオオカミを祀っている神社が多数あり（三峯（みつみね）神社など計21社）、全国的にもめずらしい地域です。江戸時代に始まったとされるお犬様信仰は、関東甲信地方へ広がりをみせ、その信仰は現在もお続いています。そのためこの地域では、現在も毛皮や頭骨を保存している家が何軒もあり、オオカミにまつわる伝承や伝説も各地で聞くことができます。

▶ 神様のお使いお犬様について

神様のお使いは動物に姿を借りて現れますが、これら神様のお使いのことを「神使（しんし）」や「眷属（けんぞく）」といい代表的なものとして稲荷神社のキツネ、八幡神社のハト、日吉神社のサルなどがあげられます。

お犬様は、山犬・オオカミが持つ類いまれな能力に、人々が畏怖（いふ）と畏敬（いけい）の念を抱き、その強い力にご神徳を求め、神様のお使いとして信心されています。秩父郡内では、三峯神社や寶登山（ほどさん）神社、両神（りょうがみ）神社(2社)、龍頭（りゅうず）神社、城峯（じょうみね）神社などがお犬様を祀っています。

この中には、神の意を知らせる兆しとして現れたお犬様に、その霊力を遺憾なく発揮していただくため、毎月の又は特定期間の特定日に「お犬様の扶持（ふち）」、「お犬様のエサ」、「お炊き上げ」と呼び習わして、赤飯・小豆飯あるいは白米を生饀（せいせん）のままや熟饀（じゅくせん）に調理し供える神事を行う神社もあります。

▶ 三峯神社

旧大滝村、埼玉県秩父市三峰にある三峯神社は秩父多摩甲斐国立公園内の標高約1100mに鎮座しています。秩父三大社のひとつとして数えられ、ヤマトタケル伝説やお犬様信仰など伝説が数多く残っており、関東屈指のパワースポットとしても有名です。

三峯神社は、今から1900年ほど前に第十二代景行（けいこう）天皇の皇子日本武尊（やまとたけるのみこと）が東国平定の帰りに山梨県から奥秩父の山々を越えて三峰山に登り、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）・伊弉册尊（いざなみのみこと）をお祀りしたのが始まりとされています。

その際、道案内をつとめたのがオオカミでその忠実さと勇猛さによって三峯神社の神使・眷属に定められたと伝えています。

お犬様はその霊力で三峯信仰の中心となり、山畑を荒らす猪などを追い払い、家々を守護して火防・盗賊除け・諸難除けの神と崇められています。

三峯神社では、毎月10日夕刻に神域を守るお犬様を祀る「近宮（ちかみや）」へ、毎月19日夕刻に諸国に貸し出しているお犬様を祀る「遠宮（とおみや）」へ、小豆飯を炊きお酒をかけた「赤飯（あかめし）」を供え「御焚上祭（おたきあげさい）」を行っています。



「お仮屋」というお犬様が祀られているお宮

コラム 三峰雨量観測所 ～三峯神社内にある雨量観測所～

三峯神社の境内、本殿の奥をお借りして三峰雨量観測所を設置しています。三峰雨量観測所では、2007（平成19）年9月の洪水時に5日の降り始めから総雨量537mmを記録しました。

国土交通省は、洪水・土砂災害などの防災や渇水などの水資源管理に必要な基礎調査として、雨量データの適切な観測を行っています。そのため、必要な箇所に雨量観測所を設置し、定期的に点検を実施しています。



三峰雨量観測所

アクセス

三峯神社

交通：秩父鉄道「三峰口駅」下車、

西武バス「三峯神社」行き「三峯神社」下車、徒歩約15分

住所：埼玉県秩父市三峰298-1



三峯神社

